

もに、小・中学校教員で構成する青海町学校教育研究会を通して町内の4つの小学校とも具体的に連携する。青海町学校教育研究会の中の国語部会、算数・数学部会は、小・中学校の教科主任で構成する。

(2) 研究の実際

ア 個に応じた課題設定の工夫

- ・ 生徒の習熟の程度に応じた課題の設定を工夫する。
- ・ 生徒の興味・関心を高める課題の設定を工夫する。

イ きめ細かな指導をするための学習形態、指導体制の工夫

- ・ 習熟度別や課題別編成による少人数指導やチームティーチングを実施する。
- ・ きめ細かな見取りと支援のための自己評価表やワークシートを活用する。
- ・ 向上心(学ぶ意欲)をもって学習に取り組ませるために学習の目標や成果を明確にしていく。
- ・ 基礎・基本を定着させるために放課後学習を実施する。
- ・ 学習習慣をはぐくむために家庭学習の充実を図る。

ウ 小学校と連携した指導の改善

- ・ 小・中学校で連携して学力の分析と共通実践を行う。
- ・ 小学校から中学校への移行を円滑に進めるために授業交流を実施する。

(3) 研究の成果と課題

ア 成果

- ・ 習熟度別や課題別編成による少人数指導やチームティーチング等、指導方法の工夫改善が進み、生徒の学力の向上が見られた。

【同一集団による、9教科すべての評定の平均の割合】

評定	14年度2学期 1,2年生の割合	15年度2学期 2,3年生の割合	比較
5	15.7%	18.8%	+ 3.1
4	32.6%	35.7%	+ 3.1
3	37.4%	35.7%	- 1.7
2	9.6%	5.8%	- 3.8
1	4.8%	4.0%	- 0.8

- ・ 生徒向けの家庭学習の手引きの作成等の取組により、家庭学習時間の増加が2年生と3年生に見られた。

【平日の家庭学習時間の平均(塾等は除く)】

生徒	14年10月調査	15年7月調査	16年2月調査
13年度入学生	2年生 16分間	3年生 26分間	3年生 63分間
14年度入学生	1年生 29分間	2年生 29分間	2年生 37分間
15年度入学生		1年生 38分間	1年生 26分間

イ 課題

- ・ きめ細かな指導の工夫としてのチームティーチングが有効な場面や、生徒同士の学び合いが有効な場面を実践研究の中で具体的にとらえていきたい。
- ・ 小学校と連携した調査により、小学校で身につけてきた家庭学習の習慣が継続されていない状況が分かった。課題の出し方や点検の仕方等について小学校と連携を図り、家庭学習の習慣化を進めたい。

(4) 研究成果の普及の方策

ア 学力向上フロンティアスクール中間発表会（平成 15 年 10 月 29 日）

- ・ 地域の小・中学校教員及び保護者を対象にして、2年目の研究成果を発表した。
- ・ 5つの研究授業の公開（国語、英語、音楽、美術、保健体育）と、3つの研究協議会の開催（個に応じた課題設定の工夫、きめ細かな指導と評価の工夫、学力向上に向けた地域・家庭と学校の連携）を実施した。各小・中学校の学力向上の取組が情報交換されたり、保護者と家庭学習や家庭教育に関わる意見交換を行ったりした。

イ 青海町学校教育研究会を含む糸西教育研究会の一斉研修会（平成 15 年 11 月 11 日）

- ・ 地域の小・中学校教員を対象にして、2年目の研究成果を発表した。
- ・ 4つの研究授業の公開（社会、数学、理科、技術・家庭）と、4つの研究協議会（実感に支えられ自ら学ぶ社会科学習、確かな力を育てる数学科の授業改善、感じ考え実感する理科学習、新学習指導要領での技術・家庭科の評価のあり方）の開催を実施した。中間発表会と合わせてすべての教科を授業公開できた。また、小・中学校の指導内容や系統性の共通理解が深まった。

ウ 研究誌等の作成と配付

- ・ 「2年次中間報告書」を作成し、中間発表会等で配付した。（平成 15 年 10 月）
- ・ 「15年度校内研究のまとめ」冊子を作成し、地域内の関係機関に配布する予定である。（平成 16 年 3 月）
- ・ フロンティア事業の取組に関わるホームページを公開する。（平成 16 年 3 月）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	✓	14年度からの継続校	
【学校規模】	3学級以下		4～6学級	
	7～9学級	✓	10～12学級	
	13～15学級		16学級以上	
【指導体制】	✓ 少人数指導	✓	T・Tによる指導	
	その他			
【研究教科】	✓ 国語	✓ 社会	✓ 数学	✓ 理科
	✓ 外国語	✓ 音楽	✓ 美術	✓ 技術・家庭
	✓ 保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		✓	有	無

人間関係づくりを基盤として、向上心（学ぶ意欲）を重視しながら、全9教科で学力向上に取り組む等の指導体制の工夫が行われている。

教科や単元の特性に基づいて、個に応じて課題を複数設定し、生徒が課題を選択する等の指導方法の工夫が行われている。

地域内の小・中学校が学力実態の分析や授業交流、家庭学習の改善等の具体的な連携を行い、「地域ぐるみの学力向上」に取り組んでいる。